

令和3年度気象庁関係補正予算の概要

防災・減災、国土強靱化の推進

27,456百万円

1. 線状降水帯の予測精度向上等に向けた取組の強化・加速化

25,754百万円

(※一部についてデジタル庁一括計上)

線状降水帯の予測精度向上を前倒しで推進し、予測精度向上を踏まえた情報の提供を早期に実現するため、水蒸気観測等の強化、気象庁スーパーコンピュータの強化や「富岳」を活用した予測技術の開発等を早急に進める。

観測の強化: 7,598百万円

- 陸上観測の強化
 - マイクロ波放射計、アメダス、高層気象観測装置
- 気象衛星観測の強化
 - 極軌道気象衛星受信装置、最新センサ活用に係る技術開発
- 局地的大雨の監視の強化
 - 気象レーダー
- 洋上観測の強化
 - 「凌風丸」代船建造、船舶GNSS観測の拡充

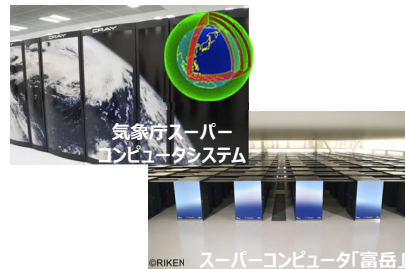


次期ひまわり
(令和10年度めどに打上げ)



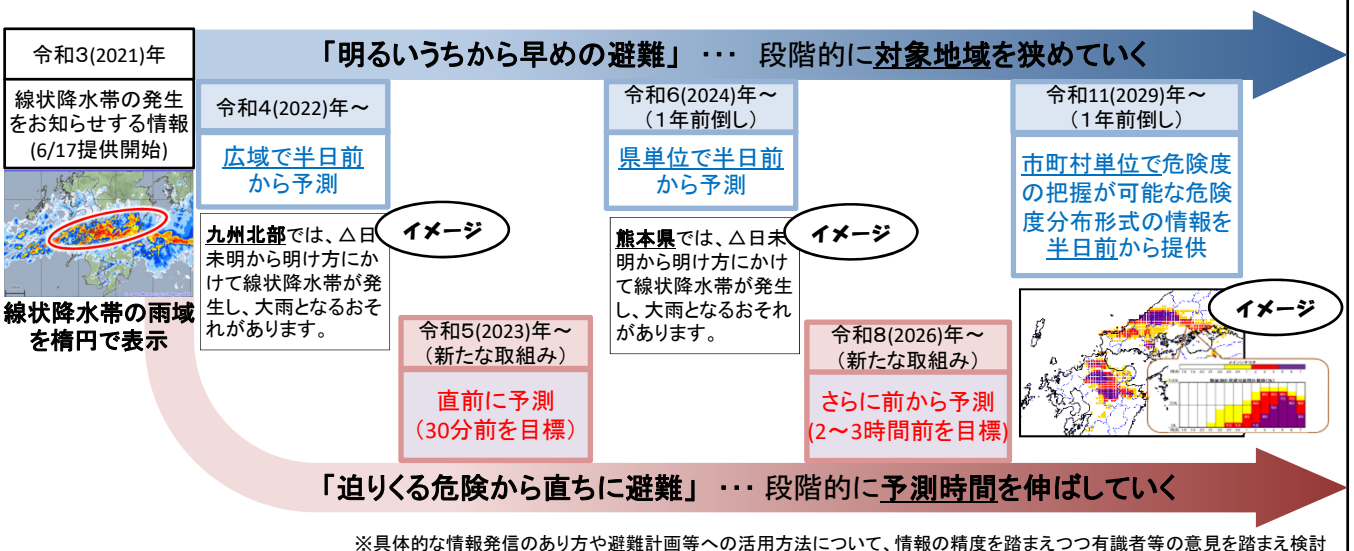
予測の強化: 18,156百万円

- 高度化した局地アンサンブル予報等の数値予報モデルによる予測精度向上等を早期に実現するためのスーパーコンピュータシステムの整備
- 線状降水帯の機構解明のための、梅雨期の集中観測、関連実験設備(風洞)の強化
- 「富岳」を活用した予測技術開発



順次反映

情報の改善



※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討

2. 地震・火山観測体制の強化

1,652百万円

(1) 地震観測施設の整備

1,168百万円

(2) 火山監視・観測用機器の整備

484百万円

切迫化する南海トラフ地震等の大規模地震に対する緊急地震速報、津波警報等の発表に必要な地震観測体制や、噴火の兆候の把握や的確な噴火警報、噴火速報等の発表に必要な火山観測体制を強化する。

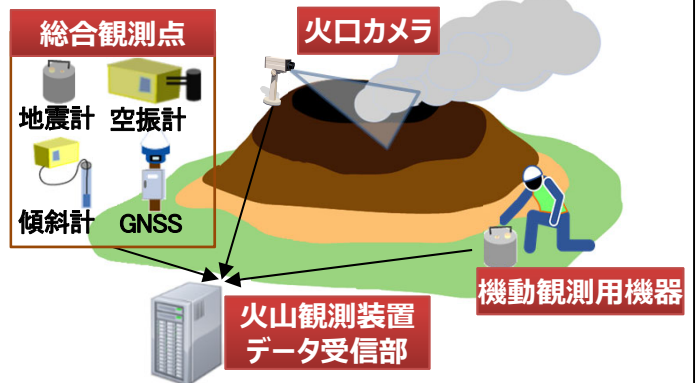
「地震観測施設の整備」

多機能型地震観測装置



- ①多機能型地震観測装置の整備
 - ・発生した地震の規模や震源の位置を推定し、緊急地震速報や津波警報等を発表
- ②震度観測装置の整備
- ③御前崎沖ケーブル式海底地震計陸上伝送部の整備

「火山監視・観測用機器の整備」



- ①総合観測点の整備
 - ・火山体及びその周辺の震動、地殻変動、噴火による空気の振動を常に監視
- ②火口カメラの整備
- ③機動観測用機器（地震計、テレメータ装置）の整備
- ④火山観測装置データ受信部（地磁気、火山ガス）の整備

3. 防災気象情報提供環境の強化

50百万円

(※デジタル庁一括計上)

防災気象情報を国民に提供する気象庁ホームページを強化し、線状降水帯等による集中豪雨や大規模地震災害・火山災害時のアクセス集中時にも防災気象情報を確実に提供できるようにする。

